



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
1月6日
発行

第11回 「2020年、株式市場は波乱の幕開け」

～ 今後は米経済を睨んだ動きへ ～

明けましておめでとうございます。今年もウィークリーレポートをよろしくお願ひします。元々新年第1号は1月10日発行の予定だったのですが、本日大発会で株価が大きく下落したことから、臨時レポートを発行させて頂くことになりました。宜しくお願いします。

(株価下落の理由)

まず、本日の株価下落の理由についてですが、日本が休日だった1月3日に各国の株式市場が大きめの下落となっていることから、本日の下落は日本の独自要因によるものでなく、世界の株式市場に共通する要因によるものと考えています。具体的には利益確定売り、米軍によるイランの革命防衛隊司令官殺害、予想ISM製造業景況感指数の3つですが、以下、簡単にコメントします。

(利益確定売り)

昨年の株式市場は年末にかけて各国とも大幅高。評価益を抱えて年を越した投資家は多かったと思います。こうした投資家が利益確定売りを出しても何ら不思議はありません。この利益確定売りが株価下落の理由の1つと考えています。利益確定売りは一巡すればそれまでなので、この要因が長期にわたって株式市場の重石になることはないと思っています。

(米軍によるイランの革命防衛隊司令官殺害)

1月3日の海外市場の下落については、これを理由とする見方が多いようです。経験則的にはこうした地政学リスク的なイベントが株式市場に与える影響は一時的なものに留まることがほとんどなので、今回も米・イラン間の緊張の高まりを理由に、株式市場が長期に低迷する可能性は低いと思います。

(ISM製造業景況指数)

3番目は米供給管理協会(ISM)が1月3日に発表した12月のISM製造業景況指数、(以下、ISM指数)が良くなかったことです。ISM指数は米国では雇用統計などと並んで注目度が高い経済指標ですが、12月は11月の48.1から49.0に改善が予想されていました。しかし結果は47.2と、予想に反して、2009年6月以来となる水準まで低下しました。1月3日の海外株安や本日の日本株安の理由として3つの要因を挙げましたが、その中でも、主因は予想に反して下落したISM指数と、それに伴う米景気への警戒感と考えています

(米景気には上振れ/下振れ共にあり)

貿易戦争が始まって以来、常に世界経済には悪化懸念が付きまとっていましたが、米経済が堅調に推移していることが支えとなり、崩れることはありませんでした。もしここで米国経済が悪化しつつあるということになれば、世界の経済や株式市場にとって大きな悪材料になる可能性があります。しかしその一方で、ISM指数は50.0が中立(景気が良くも悪くもなっていない状況)を示しているの、今の米国経済がそれほど悪いという訳でもありません。米中交渉が更に進むことによりに米国や中国の景気が改善することもあり得るでしょう。このように考えると景気や株価に対して、闇雲に弱気になることも禁物ということになります。

(今後の見通し)

最後に株式市場の見通しについてです。利益確定売りがまだ残っている可能性があること、ISM指数を消化する必要などから、目先の株式市場には下値余地があると考えていますが、それほど大きなものではなく、その後は米国の景気を睨みつつといった展開と考えています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。